

Wismettac

ビジネスレポート

Business Report Vol.1

2017.1.1-2017.12.31

 Wismettac

Letter

page 1 会社プロフィール ～西本Wismettacの強みとは?～

数字から見る

西本Wismettacホールディングス

Bring Innovation to Global Food Scene

page 2 トップインタビュー

北米での実績を基に、
更なるグローバル展開と
成長をめざします

西本Wismettacホールディングス株式会社

証券コード：9260

数字から見る 西本Wismettacホールディングス

創業から **105** 年にわたる歴史

1912年の創業以来一世紀にわたって食材・食品を取り扱ってきた
確かな実績を基に堅実で信頼性のあるサービスを提供



現在は **3** つの分野で事業を展開

アジア食グローバル事業

日本食を中心としたアジア食品・食材などを北米中心に、ヨーロッパ、オーストラリアおよびアジアの日本食レストラン・グロッサリーストア等に販売しています。

農水産商社事業

サンキスト・グローブズ社の柑橘類をはじめとした青果物、水産物などの輸入卸販売を行っています。また、国産青果の輸出や三国間貿易を通して海外販路の拡大に取り組んでいます。

アメニティ&小売事業

アメニティフード事業は、ユニークな海外のブランド食品の紹介やシーズンイベント商品の企画・販売を行っています。その他、サプリメント事業・ギフト事業・小売事業にも取り組んでいます。

世界 **46** 拠点で事業を展開

顧客と直接触れ合う営業活動により北米主要都市を中心に拠点を展開。さらにアジア・オセアニア・ヨーロッパへのネットワークを拡大中

商品企画・開発、製造から
直接・対面販売までの

自社 **1** 貫商・物流

商品をお届けするまでのバリューチェーンにかかるオペレーションを一貫して対応、お客様へのきめこまやかな対応やニーズの汲み取りを実現

詳しくはP.3を
ご覧ください

Wismettac
Asian Foods, Inc.

Shirakiku
BRAND

北米においては約 **8,300** アイテム
を販売する豊富な商品ラインナップ

PB(プライベートブランド)「Shirakiku」を展開し、各国の法令・マーケットに合わせた幅広いアイテムを販売

2017年12月期地域別売上高構成比



北米での売上高が **58.9%**

北米地域での日本食卸売事業において
確かな地位を確立

創業理念

世界の食を日本へ、
日本の食を世界へ

夢

「食」を通じて、
世界の人々の生活を
豊かにする



代表取締役社長COO
金井 孝行

代表取締役会長CEO
洲崎 良朗

北米での実績を基に、 更なるグローバル展開と成長をめざします

Q 東証1部上場に際しての想いや将来のビジョンについて教えてください。

A 今後も創業理念「世界の食を日本へ、日本の食を世界へ」の実現を追求してまいります。

当社グループは1912(明治45)年に神戸の貿易商社として創業しました。創業当時、世界各地を担ぎ商売で訪問した創業者は、日本人移民の方から「悪いけど日本食を持ってきてくれないか」と声をかけられたそうです。当時は日本食レストランなどもなく、日本食の材料となるグロッサリーを販売する日本人経営の小さなお店がありましたので、そこに日本食を卸す事業を展開することにしました。そして、日本食の輸出を行うパイオニアとして、1921(大正10)年に海外向け食品のPB「Shirakiku(シラキク)」を商標登録しました。戦争で一時輸出事業はストップしたものの、戦後の健康ブームやユネスコの無形文化遺産に「和食」が登録されるなどの後押しを受け、日本食が世界各地で注目され、日本食をはじめ、アジア食品・食材を北米中心に海外のレストラン、食品スーパーなどに販売するアジア食グローバル事業へと成長しました。

一方、輸入事業に関しては、戦前から取扱いのあった「サンキスト」ブランド商材の取扱いを軸に大きく伸長し、世界各地から青果物・水産物を国内の卸売市場、量販店、外食・中食産業、食品メーカー等へ輸入卸販売を行う農水産商社事業となりました。尚、「サンキスト」ブランド商材は

1968年からは当社が日本における販売総代理店になっています。

オーナー企業からパブリックカンパニーとして更なる100年企業となるために、管理部門の強化を目的として現在の代表取締役社長の金井を招聘し、代表取締役会長の洲崎と2名代表制として株式上場を目指し、この度東証1部市場への上場を果たしました。今後も「食と食のテクノロジーの無国籍企業」となっていく創業理念の実現に邁進してまいります。

2017年12月期 経営成績

売上高	172,078百万円
営業利益	6,324百万円
経常利益	5,916百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,067百万円

Q 現在はどんな市場環境にありますか？

A アメリカのアジア系の人口増加、日本食レストランの拡大によるマーケットの成長が見込まれます。

アジア食グローバル事業の主力市場である北米では、日本食の日常食化が進み成長は加速すると予測されています。また日本食レストランが世界各地で大幅に拡大を続けていることが農林水産省から発表されています。

農水産商社事業は、日本政府が掲げる「国別・品目別輸出戦略」に沿った事業展開を進めることで、今後は輸入だけではなく、国内の農産物の輸出が加わり、さらなる成長が見込めます。

このような良好な市場環境を背景に、2017年12月期ではアジア食グローバル事業、農水産商社事業とも堅調な売上拡大を果たすことができましたが、利益面では課題

を残した1年となりました。

アジア食グローバル事業は、米国での物流関連の費用が上昇したために、販管費が増加し、増収減益となりました。

農水産商社事業では、シトラス及びトロピカル商材等が10数年に一度の品質不良と原価高騰サイクルに見舞われました。また、市場環境が良好な局面が続くと業界全体が強気になり、輸入過多に陥ってしまう傾向にあり、原価高騰と販売価格の暴落により収益性が大幅に悪化しました。今回はそれがほぼ全てのカテゴリで起きましたが、2018年は年初から持ち直しつつあります。

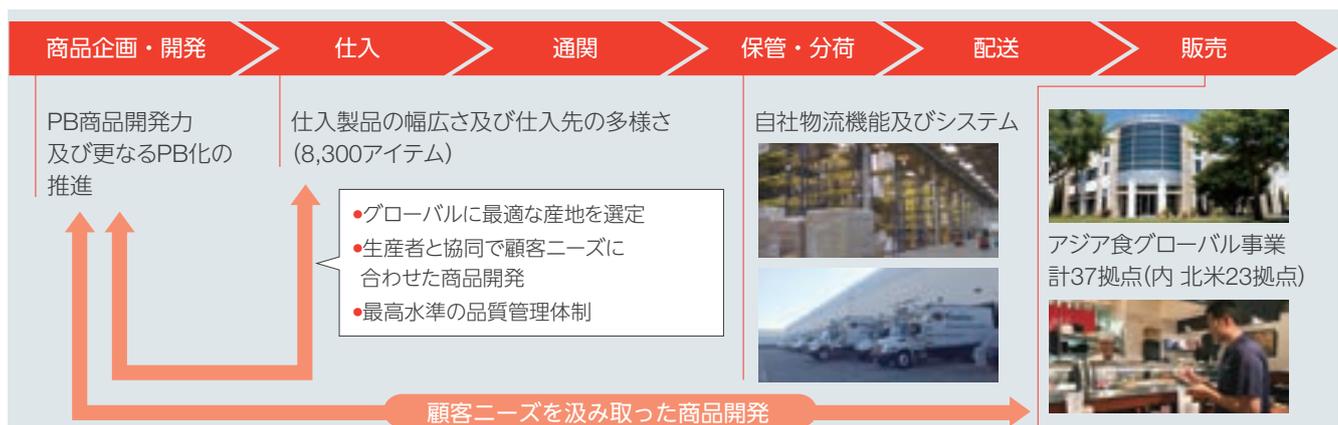
Q 「自社一貫商・物流(プラットフォーム)」について紹介してください。

A 北米を中心に世界各地で日本食を中心としたアジア食品・食材を商品企画・開発から販売・物流に至るまで、全て自社で手掛けることで、コストの最適化や関連法規制への対応を図るとともに、顧客ニーズを的確に反映した商品開発を実現しています。

アジア食グローバル事業では、商品の企画・開発、仕入から、現地生産、輸入通関、在庫管理、分荷・配送、販売に至るまでの食のグローバル流通網に係るオペレーションを、当社グループが北米を中心に世界各国において一貫して手掛ける「自社一貫商・物流」を実施しています。グローバルな対面販売とそのデータを活用し、「マーケット・イン」の視点から各地域の食のニーズにマッチしたPBを中心とした商品開発を行っています。また、顧客に対してスピーディーできめ細やかなサービスを提供するために自社物流機能として、北米全支店においては自社運行トラックを配し自社管理倉庫にて四温度帯(極低温、冷凍、冷蔵、常温)

での温度管理も行うことで常にベストな状態で商品を供給できる体制を整備しています。さらに販売面においても、営業スタッフが顧客(レストラン、リテール等)を訪問し、対面営業による足腰の強い営業活動を行っています。これら一連の自社一貫商・物流を、我々は「プラットフォーム」と呼んでいます。

こうした体制に加え、法令に準拠することは勿論のこと一部ではそれを越えた自社基準でのフードセーフティ体制を構築し健康危害を防止するとともに、食品企業としての高いモラルを確保するコンプライアンスを推進しています。



Q 今後の成長戦略において、どのような取り組みに注力していきますか？

A アジア食グローバル事業においては、北米モデルのグローバル展開や新規事業の取り組み、農水産商社事業では、アジア各国の販売活動の促進に取り組んでいきます。

アジア食グローバル事業

既存事業に関しては、2017年度の北米での物流コストの上昇に対しては今後、抜本的な業務改革を断行し、加えてAIの導入や倉庫の機械化などの省力化技術を導入することで、解決を図ってまいります。顧客の業界別・テーマ別のPB商品開発にも一層力を入れてまいります。加えて、北米以外のエリアで日本食の浸透度の高まりを確実に収益化してまいります。新規事業としては、北米における「プラットフォーム」上で取扱う新規コンテンツ(新規顧客向けの新商材・サービス)の事業化に取り組んでまいります。

農水産商社事業

2017年度は約10年振りの相場環境悪化でしたが、これにより当社のシェアは高まり、回復が期待されます。既存事業の安定化に加えて、日本政府が進める国内農林水産物・食品の輸出にフロントランナーとして関わっていることで、輸出部門でも成長を確保しつつあります。

2018年12月期を起点とした3か年の中期経営計画では、既存事業の安定成長のみで2020年12月期に売上高2,290億円、営業利益90億円を確保し、これら既存事業の安定成長を前提に、新規事業の「種まき」と「育成」を進め、さらなる売上・利益の上積みを図っていきます。

当社の 目指す姿

食のグローバル流通業において、Cross-borderで、事業展開国・エリア毎に最適な事業「プラットフォーム」を構築し、「プラットフォーム」上に複数「コンテンツ(≒ビジネスモデル)」を展開するonly one企業となる。

中期経営計画の 基本方針

新規事業：BtoB(C)からBtoBへ、次の柱を育成

- 法人需要の取り込み
- 新コンテンツ開発・展開
- 国内からの青果輸出・三国間貿易
- プラットフォームの充実

既存事業：安定成長

- 成熟した北米市場
- 国内青果事業のシェア増
- 北米以外のグローバル展開の収益貢献

事業環境の大きな変化

農水畜産業における
生産性・技術革新

ニーズの多様化

アマゾンエフェクト

物流新技術

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 食を通じた国際社会への貢献を全うすることにより、ステークホルダーの皆様のご発展に尽くしてまいります。

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題の1つとして位置付け、将来の事業展開と財務体質強化のための内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続していくことを基本方針としております。

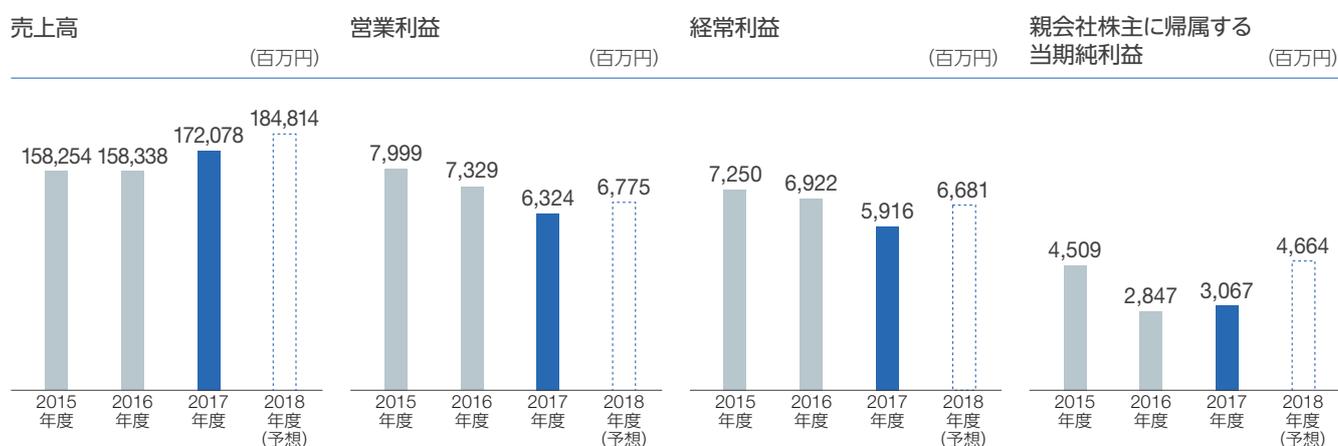
2017年12月期の期末配当は、1株当たり70円とし、配当性向は連結で32.8%となりました。2018年12月期は、

中間配当40円、期末配当55円とし、年間配当額は95円、配当性向29.2%を予定しています。

この他にも様々な形を通じて、株主様への還元の高い目標を持って取り組んでいきます。株主の皆様におかれましては、引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結財務ハイライト

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度(予想)
売上高	(百万円)	158,254	158,338	172,078	184,814
営業利益	(百万円)	7,999	7,329	6,324	6,775
経常利益	(百万円)	7,250	6,922	5,916	6,681
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	4,509	2,847	3,067	4,664
純資産	(百万円)	37,131	38,979	49,753	—
総資産	(百万円)	60,627	72,721	84,336	—
1株当たり純資産	(円)	2,972.10	3,120.03	3,466.38	—
1株当たり当期純利益	(円)	360.94	227.95	236.37	—
自己資本比率	(%)	61.2	53.6	59.0	—
ROE	(%)	12.9	7.5	6.9	—



セグメント別の概況

売上高構成比 (%)



アジア食グローバル事業

売上高 118,444百万円

セグメント利益 5,699百万円

北米地域では、売上高は順調に伸長したものの、各部門の強化を目的とした増員、人件費及び物流費の上昇に伴い販管費が増加し、増収減益となりました。北米以外の地域では、既存拠点における事業拡大・収益力の強化に加え、英国・Harro Foods Limited、香港・慧思味達日本食品有限公司を連結子会社化したことにより、増収増益となりました。



農水産商社事業

売上高 49,643百万円

セグメント利益 431百万円

売上高については、前期を上回る結果となりましたが、利益面では、第4四半期において持ち直しつつあるものの、前連結会計年度第4四半期以降のシトラス及びトロピカル商材の原価高騰の影響により減益となりました。



アメニティ & 小売事業

売上高 3,990百万円

セグメント利益 174百万円

ハロウィン・クリスマス等のシーズン商品及びキャラクター商品等の国内販売が堅調に推移し、増収増益となりました。

会社情報 (2017年12月31日現在)

会社概要

社名	西本Wismettacホールディングス株式会社 (英名)Nishimoto Co.,Ltd.
創業	1912年5月
本社所在地	東京都中央区日本橋三丁目10番5号 オンワードパークビルディング
資本金	2,646,177,532円

役員 (2018年3月27日現在)

代表取締役会長 CEO	洲崎 良朗	取締役 (常勤監査等委員)	高橋 伸治
代表取締役社長 COO	金井 孝行	社外取締役 (監査等委員)	能見 公一
取締役 CFO	木村 敦彦	社外取締役 (監査等委員)	大村 由紀子

国内・海外拠点

〈日本〉

- 西本Wismettacホールディングス株式会社
- 東京本社、沖縄駐在員事務所、神戸本店 (※登記本店)
- 西本貿易株式会社
- 東京本社、神戸本店 (※登記本店)
- Wismettacフーズ株式会社
- 東京本社、神戸支店、神戸支店 東部営業所

〈北米〉

- Wismettac Asian Foods, Inc.
- Los Angeles Office、Arizona Office、Atlanta Office、Chicago Office、Dallas Office、Denver Office、Miami Office、Hawaii Office、Houston Office、Las Vegas Office、New York Office、San Diego Office、San Francisco Office、Seattle Office、Washington, DC office、Toronto Office、Vancouver Office、Montreal Office、Orlando Office、Boston Office (Satellite Office)、Sacramento Office (Satellite Office)、Calgary Office (Satellite Office)、Ohio Office (Satellite Office)

〈アジア〉

- 西本貿易株式会社
- バンコク駐在員事務所
- 慧知旺食品商貿 (上海) 有限公司 (※2018年1月5日付で西本連合食品商貿 (上海) 有限公司より社名変更)
- 愛品盟果業貿易 (上海) 有限公司
- NTC Wismettac Singapore Pte.Ltd.
- 慧思味達日本食品有限公司

〈オセアニア〉

- NTC Wismettac Australia Pty Ltd.
- Sydney Office、Melbourne Office、Perth Office、Brisbane Office

〈ヨーロッパ〉

- 西本貿易株式会社
- パリ駐在員事務所
- NTC Wismettac Europe B.V.
- Harro Foods Limited
- SSP Konsumgüter TRADE & CONSULT GmbH
- COMPTOIRS DES 3 CAPS SARL
- Comptoirs Oceaniques
 - Cap Cavally
 - Tropic Fish

株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	14,353,140株
株主数	7,799名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
多津巴産業株式会社	6,235	43.4
洲崎良朗	2,910	20.3
公益財団法人洲崎福祉財団	1,300	9.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	407	2.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	214	1.5
金井孝行	140	1.0
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	110	0.8
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	101	0.7
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMUNIBUS-MARGIN (CASHPB)	97	0.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	88	0.6

(注1) 上記の持株数は千株未満を切り捨てて記載しております。
(注2) 持株比率は、自己株式36株を控除して計算しております。

ホームページのご案内

当社のホームページでは、事業内容やニュース&トピックス、西本Wismettacグループの概要についてご紹介しています。また、株主・投資家情報のページでは最新の財務・業績の情報のほか、IRに関するニュース、IRライブラリーなど様々な情報をご提供しています。是非一度ご覧ください。

<http://www.wismettac.com/ja/index.html>



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日から3か月以内
基準日	12月31日
剰余金の配当の 基準日	中間配当 毎年 6月30日 期末配当 毎年12月31日
1単元の株式数	100株
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法によって行う。
	公告掲載URL http://www.wismettac.com/ja/ir/e-announce.html

東証一部市場に上場しました

当社は、2017年9月29日
をもちまして、東京証券取引
所市場第一部に上場いたしま
した。役員はじめ従業員一同、
上場企業としての社会的責任
を自覚し、今後も「世界市場に
食材・食品と食のテクノロ
ジーを提供するグローバル
企業」として、社会の発展に貢
献することを目的に事業を展
開してまいります。



株主優待制度を制定しました

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝し、株主優待制度を
制定いたしました。当社株式1単元(100株)以上を保有されて
いる株主様に、商品購入サイト「NISHIMOTO WORLD
GIFT」でご利用いただけるクーポンコード(1クーポンコード
=3,000円相当)を贈呈いたします。詳しくは本冊子と同封し
ております資料等をご確認ください。



Vol.1
アメリカ
ニューヨーク

世界の西本Wismettac

西本Wismettacグループは世界中で事業を展開し、皆様の食卓に「便利でおいしい」を届ける活動を
しています。

Wismettac Asian Foods, Inc. ニューヨークオフィスより

Q. 現地で西本Wismettacグループはどのように評価されていると感じますか？
また、Kaoriさんはどのような仕事に携わっていますか？

幅広い取扱い商品や優れたサービスから、レストラン経営者が日本食材を探るとき、最初に思い浮かべる
会社がWismettacです。

そして、私は営業としてニューヨークで有名な日本食レストランを担当しています。週毎の受注や、新商品の
紹介に加え、お客様と良い関係性を築くことも私の大切な仕事です。競合他社もあるニューヨークにおいて、
高品質で競争力のある価格のPB「Shirakiku」のほか、お客様との良い関係性が私にとって有利な結果につながっ
てきました。私は多くのレストランで「ファミリー」の一員として認められており、レストランの成功を目の当
たりにするとき、そして自分自身もそこに貢献したと感じるとき、非常に大きな喜びを感じます。

Q. ニューヨークで出会った美味しいグルメを教えてください。

ニューヨークには何千ものレストランがあり、本当にたくさんの選択肢があるので、好きな店や好きな食べ物を
一つだけ選ぶなんてとても無理です！そこら中の通り沿いに停まっている「フードトラック」は、せわしないニュー
ヨークにはぴったりのアイデアです。フードトラックからは、ハラールフード、コリアンバーベキュー、ホット
ドッグ…と様々な種類の食べ物が買えます。注文から数分で用意され、値段も安く美味しくです！ニューヨー
カーが友達と飲んだあとのメといえば、ハラールフードトラックのチキンオーバーライスです！

海外からの
“声”



ニューヨーク ニュージャージー
レストラン部門 営業担当

カオリ エミリー ハイネル
Kaori Emily Heinel



現地で働く社員に聞く！

海外の日本食事情

ニューヨークで広まる「アジアンフュージョン」とは？

日本食や日本文化は常に注目されていて、「アジアンフュージョン」という言葉が生まれ、広まっています。「アジアンフュージョン」とは、他の食文化
の要素と掛け合わされた日本食のことを言います。例えば、ジャパニーズフレンチ、ジャパニーズアメリカンなどです。本格的な日本食の需要は常
にありますが、アジアンフュージョンはどんなタイプの消費者も満足させる、幅広い料理を提供するものなのです。様々な種類の食材が使われ、
トッピングにクリームチーズやマンゴーソースが使われていたりするスペシャリティロールが人気です。そんなスシロールの種類は無限大で、多くの
スシシェフが日々、食べて美味しいだけでなく、見た目も美しい料理を創作しています。

西本Wismettacホールディングス株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目10番5号 オンワードパークビルディング
Tel: 03-6870-2015 Fax: 03-6870-2016

